

事業群評価調書(平成30年度実施)

基本戦略名	5 次代を担う子どもを育む	事業群主管所属	教育庁義務教育課
施策名	(4) 我が国と郷土を愛する心や豊かな人間性、社会性の育成	課(室)長名	木村 国広
事業群名	① ふるさとを愛し、我が国と郷土長崎に誇りを持つ子どもの育成 ④ 子どもたちが直接自然と触れ合う体験活動や農山漁村での交流体験の推進	事業群関係課(室)	高校教育課、生涯学習課

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)										(取組項目)	
①我が国と郷土に誇りを持ち、明るく活力ある地域社会の実現を目指し、我が国と郷土の歴史や伝統文化についての理解を深め、次の世代へ確実に継承しようとする態度を育みます。また、本県の特徴である「しま」の特性を活かした体験活動を通じてふるさと長崎県の再認識を図る取組を推進します。 ④子どもたちの豊かな人間性や社会性を養うため、自然と直接触れ合う体験をはじめ、農林漁業体験、異年齢の子どもや地域の人々との交流など学校内外の体験活動の機会を充実させるとともに社会的課題に対応した体験活動を推進します。										i)教科や総合的な学習の時間等における郷土を理解する教育の推進(事業群①) ii)我が国や郷土の伝統・文化に関する学習の充実(事業群①) iii)「しま」のよさを活かした体験活動や地域の人々との交流など学校内外での体験活動を通じたふるさと長崎県の再認識の促進(事業群①④)	
事業群	指 標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)	
	①郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合(小・中学校)	目標値①		90%	95%	100%	100%維持	100%維持	100%維持(H32)		
		実績値②	79.6%(H26)	81.8%	82.3%				進捗状況		
		②/①		90%	86%				やや遅れ		
	指 標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)		
	④自然体験活動に取り組んでいる小・中学校の割合	目標値①		80%	85%	90%	95%	100%	100%(H32)		
		実績値②	79.3%(H26)	82.6%	82.6%				進捗状況		
		②/①		103%	97%				やや遅れ		
	指 標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	①郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合については徐々に増加傾向にある。社会科や総合的な学習の時間をはじめとする様々な学習場面において、郷土長崎のよさに目を向ける指導に加え、児童・生徒が郷土のために自ら行動し、郷土の役に立つ学習を展開し、郷土長崎への理解と愛情を深めていく必要がある。 ④平成29年度の目標は、ほぼ達成できている状況である。小学校に比べると中学校での実施割合が低いため、各種研修会を通じて中学校での実施についての理解を深めていく必要がある。	
	指 標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)		
	指 標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)		

2. 29年度取組実績(H30新規・補正は参考記載)

事業 番号	取組 項目	事務事業名	事業 期間	事業費（単位:千円）			事 業 概 要		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					29年度事業の成果等	中核 事業
				H28実績	うち 一般財源	人件費 (参考)	事業対象	29年度事業の実施状況 (30年度新規・補正事業は事業内容)	指標	主な目標	H28目標	H28実績	達成率		
		H29実績		H29目標							H29実績				
		所管課(室)名		H30計画							H30目標				
1	取組 項目 i	郷土学習資料作成事業	H15-	2,946	2,946	2,413	公立中学校1年生及び特別支援学校中学校部1年生	平成30年度版「ふるさと長崎県」を作成し、県内各学校や関係機関に配布した。 29年度版からの主な改訂内容は、「ふるさと長崎県の農業への『夢・憧れ・志』」「長崎とベトナムの歴史的関係」「『しま』は長崎県の宝」を新規に掲載し、全編にわたり数値等の修正を行った。	活動 指標	作成配付部数(冊)	15,250	14,750	96%	「ふるさと長崎県」の活用について、社会科の時間や総合的な学習の時間のみならず、朝読書等の短い時間を活用して、読み物資料として本教材を取り扱うなどの工夫した取組を各小・中学校で実施し、ふるさと学習の充実に向けた地道な実践を行った。	○
				2,753	2,753	2,414					14,000	14,750	105%		
											14,250				
				義務教育課	3,110	3,110			2,399	成果 指標	郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合(小・中学校)(%)	90	81.8		
		95										82.3	86%		
											100				

2	取組項目 ii	長崎発 未来の創り手育成プラン(再掲)	(H30 新規) H30-32				高校生	毎年県立高校6校、3年間で18校を研究指定し、専門家や地元市町の協力を得ながら、地域活性化に向けた取組等を行う。また、平成33年度までに全ての県立高校が、ふるさと教育についての体系図と年間指導計画を作成する。	活動指標	県立高校(全日制)における「ふるさと教育年間指導計画・体系図」を作成している学校数(校)				—		
		高校教育課		1,605	1,605	3,998			成果指標	指定校において将来ふるさとへの発展に貢献したいという意識が高まった生徒の割合(%)	6					85%以上
3	取組項目 iii	「しま」体験活動支援事業費	H23-	353	353	1,608	公立小・中学校	平成29年度は、長崎市、大村市、波佐見町の小・中学校や県立中学校の児童生徒912人が本事業により体験活動を実施した。活動先は、壱岐市、五島市の2市である。また、しまの魅力を広く伝えるため、実施校から聞き取った活動内容をまとめ、各学校や旅行者に情報提供を行った。	活動指標	各市町教育委員会に対する説明(回)	2	3	150%	長崎県に生まれながら、「しま」を知らずに県外へ進学・就職していく子どもも多い。参加した912人の97.3%がもう一度島を訪れたいと思うなど、成果をあげることができた。		
				485	485	1,609					3	3	100%			
				663	663	1,599					4					成果指標
		義務教育課						95以上	97.3	100%						
								95以上								
4	取組項目 iii	しまの魅力に出会う日本の宝「しま」交流支援事業	H27-32	4,380	4,380	7,238	小学4年～中学3年の児童生徒	「しま」ならではの体験活動を通して、参加者同士や地元住民との交流を行った。さらに、地元小中学生と参加者、地元高校生や本土の大学生ボランティアスタッフなど、多世代での交流にもつながった。 また、すべての子どもに体験の機会を提供できるよう、就学支援世帯の参加者に対して参加費の補助を行った。	活動指標	H28:子ども・親子コースの参加者合計256人を維持する(人)	256	249	97%	実施市町に対し、事業費の支援を行うとともに、企画段階から積極的に県がかかわることで、本事業の所期の目的を達成できた。また、就学支援世帯の参加者に対し、参加費の全額補助を実施したことで、すべての子どもたちに「しま」での体験の機会を提供することに寄与した。	○	
				5,197	3,043	7,241				H29:参加者数(人)	220	209	95%			
				2,289	1,505	8,796					120					成果指標
		生涯学習課						90以上	95.6	100%						
								90以上								

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i) 教科や総合的な学習の時間等における郷土を理解する教育の推進(事業群①)
これまでのふるさとへのよさを学ぶというふるさと教育から、人口減少や環境保全、地域創生という地域が抱える課題に対して、子どもたちが自分たちの力で解決を図ろうとする未来を創るふるさと教育を推進し、郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の育成を推進していく。
ii) 我が国や郷土の伝統・文化に関する学習の充実(事業群①)
我が国や郷土の伝統・文化に関する学習については、学習指導要領でも求められているところであり、グローバル化が進むこれからの世の中であるからこそ、その基盤となる資質を養うものである。総合的な学習の時間に取り扱う伝統芸能のみならず、様々な教科等の中で横断的・総合的に展開する必要がある。各学校において、年間指導計画の配列等を工夫するための指導を展開していく必要がある。
iii) 「しま」のよさを活かした体験活動や地域の人々との交流など学校内外での体験活動を通じたふるさと長崎県の再認識の促進(事業群①④)
・本県の特徴である「しま」ならではの体験活動を通して、ふるさと長崎県のよさを再認識することができた。また、参加者同士や地元の方々などとの交流を通して、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。 ・「しま」の自然や歴史、産業などを活用した体験に加え、離島の重要性や必要性を学ぶプログラムを盛り込み、地元にとってより効果の高い事業展開を行っていく。

4. 30年度見直し内容及び31年度実施に向けた方向性

事業 番号	取組 項目	事務事業名	30年度事業の実施にあたり見直した内容 (H30の新たな取組は「H30新規」等と記載、見直しがない場合は「－」と記載)	31年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組 項目 i	郷土学習資料作成事業	－	－	子どもたちの郷土長崎に対する理解と愛情を深めるため、本学習資料の果たす役割は大変大きい。今後も、引き続き内容の充実を図りながら、本学習資料の継続的な活用を行い、子どもたちの郷土長崎に対する愛情を深めていく。	現状維持
2	取組 項目 ii	長崎発 未来の創り手 育成プラン(再掲)	H30新規	－	平成30年度における事業の実施状況を見ながら、必要な見直しがあれば検討していく。	現状維持
3	取組 項目 iii	「しま」体験活動支援 事業費	－	②	本事業は平成23年度から展開されており、平成29年度までに5,942人の児童生徒が、しま部での体験活動を行った。参加した児童生徒の多くが、日常生活では味わえない体験に感動を覚え、「しま」の良さを感得している。 平成31年度においては、参加児童生徒数を増やすため、引き続き市町と協力し、活動の意義や具体的な実施方法の周知をさらに丁寧に行うとともに、保護者に対する情報発信に努め、実施校を増やしていく。	改善
4		しまの魅力に出会う日 本の宝「しま」交流支 援事業	平成30年度は国境離島の重要性を学ぶ教育プログラムを全ての実施市で行う。また、参加者同士の交流がより深くなるよう参加人数を見直すとともに、地元の小中学生も全日程参加するなど、より一層のふるさと教育の充実を図る。	②⑤	離島で体験をしたことや国境離島の重要性について学んだことを参加者同士で意見交換・発表する機会を設けるなど、参加者の学びがより充実したものとなる取組を行う。 県と開催市との役割分担について、より地元の主体性が高まるよう協議していく。	改善

注:「2. 29年度取組実績」に記載している事業のうち、H29年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。

② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。

③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。

④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。

⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。

⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。

⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。

⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。

⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。

⑩ その他の視点